

平成30年 第5回香取市総合計画審議会 会議概要

開催日時： 平成30年1月30日（火） 午後1時30分から

開催場所： 香取市役所7階 全員協議会室

出席者： <委員>

浅野文男委員、高岡正人委員、大川裕志委員、金親孝夫委員、伊藤 寛委員
堂下 浩委員、関謙次郎委員、圓藤弘典委員、實川美香委員、鈴木恵子委員
中村伸也委員、鵜崎昭一委員、奈良律子委員

<事務局>

総務企画部企画政策課
有限責任監査法人 トーマツ

欠席者： <委員>

武田好久委員、石井良典委員、菅谷長藏委員、平山茂治委員、栗田 智委員
香取 浩委員、椎名宥心委員

議 事： (1) 基本構想（案）について

市民の声（市民意識調査結果）

(2) 基本計画（案）について

香取市の将来の姿（将来人口、財政推計、地域整備の方向性）

重点プロジェクト

(3) 答申（案）について

配付資料： 資料1：第2次香取市総合計画 基本構想（案）

資料2：第2次香取市総合計画 前期基本計画（案）

資料3：答申（案）

議事内容：

1 開会

2 副市長挨拶

本日は市長が出張中につきまして、代わりにご挨拶させていただきます。本日は大変お忙しい中、第5回総合計画審議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日は5回目の審議ということで最終回になります。昨年4月の第1回の会議からこれまで皆様方には様々な立場や観点から慎重審議頂きましたこと深く感謝申し上げます。この審議会を経た後に議会への説明、それからパブリックコメント、審議会からの答申という手続きを踏みまして、3月の下旬での策定を予定しているところでございます。今後、基本構想に掲げる将来都市像「豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 香取～人が輝き人が集うまち～」の実現に向けて努めて参りますので、皆様方におかれましても引き続き市政推進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これまでの審議会の運営や慎重審議につきまして改めて御礼を申し上げます。簡単ですが挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

3 議事

議題(1) 基本構想(案)について

「まちづくりについての市民の声」について事務局から説明。

【事務局(企画政策課)】

こちらは、昨年9月から10月にかけて、実施した「市民意識調査」の結果の一部を抜粋して掲載している。市民意識調査は、無作為抽出した18歳以上の市民2,500人が対象となっており、回答数1,355件、回答率は54.2%となっている。

「市の住みやすさ」に関する調査では、香取市が住みよいと感じている方の割合は、48.5%となっており、平成27年度の前回調査結果47.0%から若干の上昇している。

「市への定住意向」に関する調査では、香取市に定住したいと考えている方の割合は、64.6%となっており、前回調査結果60.5%から上昇している。

「市の取り組みに対する満足度」の調査結果を掲載している。文化財保護に関する取り組みが上位を占め、下位には、企業誘致や雇用など産業振興に係る取り組みとなっている。

「まちづくりに対する重要度」の調査結果を掲載している。地域医療体制の充実が最も多く、次いで、高齢者福祉の充実、雇用の機会、子育て支援となっている。

「満足度・重要度調査結果の散布図」を掲載している。こちらについては、全体の結果のほか、年代ごとの特徴を把握するため、10～30歳代、40～50歳代、60歳代以上の計4つの散布図を掲載している。

市民全体の回答傾向として、市の現状の課題(重要度が高く満足度が低い施策)は、「5雇用の機会・労働環境の向上」「20地域医療体制の充実」などが挙げられる。

世代別の傾向を見ると10～30歳代においては「16子育て支援の充実」、「20地域医療体制の充実」、40～50歳代においては「20地域医療体制の充実」、「5雇用の機会・労働環境の向上」、60歳代以上では「20地域医療体制の充実」、「17高齢者福祉福祉の充実」となっている。

世代別の回答傾向を比較した際、10～30歳代では全体の回答傾向よりも子育て支援に対するの取り組みを重要だと思ふ傾向が強く、60歳代以上では全体の回答傾向よりも高齢者福祉に対する取り組みが重要だと思ふ傾

向が強いことが読み取れる。

【中村委員】

市民意識調査で得られた市民の声は、どのように計画に反映されているのか。また、調査結果が計画の中でどのような位置づけになるのかがわからない。市民意識調査の結果は、計画策定のどの部分に反映することを検討しているのか。

【堂下委員】

高校生アンケートや、ワークショップの結果を含めた市民の声の反映方法については、前回の審議会時に確認している。

【中村委員】

資料1 18～19頁に記載されている散布図のグリーンのトーンで示されている重要度が高く満足度が低い施策を重点施策と捉えてよいか。

【事務局（企画政策課）】

重点プロジェクトは4つある。市民意識調査結果散布図のグリーンのトーン内にある施策は、内容を見直し、市民満足度を上げていかなければならないものである。これらを重点プロジェクトとして位置付けている。

議題（2）基本計画（案）について

「将来人口の見通し」、「財政状況の見通し」、「地域整備の方向性」、「重点プロジェクト」について事務局から説明。

【事務局（企画政策課）】

「将来人口の見通し」は、平成27年度に策定した香取市人口ビジョンからの推計値を引用している。2030年には、人口が70,000人を切り、15歳から64歳までの生産人口年齢が減少とすることが見込まれている。

「財政状況の見通し」については、昨年末の12月に財政担当より示された「中長期財政推計」に基づき掲載している。前期基本計画期間においては、市税の減収、普通交付税の増収が見込めない中、公債費等が増加することで、市の財政の硬直化が進行することが懸念されている。これにより、財政調整基金を切り崩して、財源不足に充てながらの財政運営になることが見込まれている。

「地域整備の方向性」については、将来のまちの骨格となる将来都市構造を「拠点」「軸」「ゾーン」と設定して整備を進めていくものである。

【事務局（トーマツ）】

香取市最大の課題は、少子化と人口減少である。この課題に対し、限られた人材・予算などで効果的、効率的に解決するためには、選択と集中による施策の展開が必要となる。このため、分野を横断した取り組みを推進し、最大の効果が得られるよう重点プロジェクトを設定する。

少子化や人口減少の課題に対応し、人口減少に歯止めをかけ、市民生活の水準を維持・向上できるよう平成27年度に総合戦略を策定し、対処すべき課題について取り組んでいる。総合戦略の計画期間が平成31年度までとなっており、課題解決には継続的な取り組みが必要であることから、少子化や人口減少への対応を重点プロジェクトとして位置付けている。また、市民意識調査の結果から、重要度が高く、満足度が低いと捉えている取り組みについても重点プロジェクトに位置付けている。

重点プロジェクトを設定するにあたり、4つの基本視点を設定している。1つ目は、市内外の人を惹きつける雇用環境の整備を目指す「地域における雇用の確保」。2つ目に、観光資源を活用した交流人口の拡大と定住・移住の促進を目指す「定住・移住・交流の促進」。3つ目に、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境の構築を目指す「若い世代が結婚から子育ての希望をかなえる環境の整備」。4つ目に、限りある経営資源を計画的効率的に活用し、市民ニーズに応じた行政サービスの提供、地域づくりの構築を目指す「持続可能な地域づくりの推進」としている。

以上の視点に対応する、「多様な働く場づくりプロジェクト」「人を惹きつけるまちづくりプロジェクト」「安心・安全な子育て環境づくりプロジェクト」「次世代へ続く地域づくりプロジェクト」を設定する。

「多様な働く場づくりプロジェクト」は、住み慣れた地元で、成長とやりがいを感じることでできる魅力的な雇用の場を創出し、生活基盤の支えとなる雇用環境の充実を図るため、成田国際空港圏である本市の強みを活かしながら、既存産業の活性化や企業の誘致、創業支援などに取り組んでいくというものである。

主な取り組みとしては、地域を支える中小企業や商店街活性化支援、地元ニーズに適った企業誘致や創業等への支援、魅力ある農林畜産業の実現である。これらを推進する中心となる施策は、「農林畜産業」「商工業」「企業誘致」となっている。

「人を惹きつけるまちづくりプロジェクト」は、香取市の優れた地域資源を活用して移住・定住の促進や交流人口の増加を図るため、香取を訪れる人が「行ってみたい」から「住みたい」との思いを持てるよう、歴史・食などの資源の活用により、地域の魅力を最大限に活かす取り組みと移住のための支援を行い、地域外からの人の流れを新たに創出に取り組んでいくものである。

主な取り組みとしては、歴史・文化の活用、観光資源の連携による回遊性の向上及び中心市街地の活性化、住環境面からの定住・移住推進体制の整備、公共交通の利便性の向上である。これらを推進する中心となる施策は、「観光」「学校教育」「歴史・文化」「市街地整備」「町並み整備」「住宅環境」「公共交通」となっている。

「安心・安全な子育て環境づくりプロジェクト」は、若年層の人口流出、出生率の向上を図るため、子育て世代が「ここで子どもを産み育てたい」と思えるまちをつくりあげていくため、結婚から子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援を充実するなど、子育て世帯を地域全体で支え合い、安心して子どもを産み育てられるまちを目指していくものである。

主な取り組みとしては、結婚から子育てまで切れ目ない支援体制の充実、地域における子育て支援体制の充実、保健機能の充実である。これらを推進する中心となる施策は、「子育て」「健康づくり」となっている。

「次世代へ続く地域づくりプロジェクト」は、本市が直面する様々な課題は高度化、複雑化し、行政だけでは解決できない内容が多くなっていることから、市民、企業等と行政が一体となって課題解決に取り組んでいくというものである。さらに、合併特例による様々な優遇措置の段階的な解消に伴い、今後、本市の財政状況は厳しさを増すことから、行政サービスの質と量を維持するため、効率的な行財政運営を推進していくものである。

主な取り組みは、市民協働による地域づくり、地域医療の充実、高齢者福祉の充実、行政運営・財政運営である。これらを推進する中心となる施策は、「介護・介護予防」「高齢者の生きがい」「地域医療」「教育施設・環境の整備」「市民協働」「行政運営」「財政運営」となっている。

資料2_17 ページには、重点プロジェクトと各施策との関連表を掲載している。特に関連の強いものに◎を、関連のあるものには○を付している。

【奈良委員】

資料2の「地域整備の方向性」において、栗源の観光交流拠点に、民間企業が経営しているファームカフェや

コテージなどは拠点項目に入らないのか。行政のみならず、市民、地域・企業、各種団体連携となるのであれば、現在観光の中心となっている民間施設を拠点項目に入れたほうが良いのではないのか。

【事務局（企画政策課）】

特定の民間施設を計画の中で取りあげることは、行政として難しい部分があるが検討させて頂きたい。

【堂下委員】

表内に民間施設を列挙するのは、難しい部分があると思うが、文中に民間施設を活用していくなどの表現を追加するなどの対応をお願いしたい。

【中村委員】

資料2の「地域整備の方向性」の内容は、次ページ以降の具体的な施策と関係がないように見えるが掲載する必要はあるのか。

【事務局（企画政策課）】

「地域整備の方向性」は、都市計画マスタープランから引用している。地域整備の方向性を定めることは、計画進行上の前提条件という位置づけで計画に掲載しており、必要であると考えている。

【堂下委員】

「地域整備の方向性」にある拠点等について特定の名称を記載するなどして市民にとって理解しやすい工夫をしてほしい。

【中村委員】

資料2_11 ページに、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「第2次香取市総合計画 前期基本計画」の関係性を示した図がある。この関係性の図の中に「まちづくりの基本姿勢」の項目が位置づけられていないが、この関係性の図の中では「まちづくりの基本姿勢」はどう位置づけられるのか。

【事務局（トーマツ）】

「まちづくりの基本姿勢」は、「重点プロジェクト」のみに適用されるものではなく、総合計画推進全般の取り組み姿勢の考え方として位置づけられている。そのため「まちづくりの基本姿勢」は、重点プロジェクト部分のみの項目ではないため「重点プロジェクト」の説明部分では特出しで掲載をしていない。

「まちづくりの基本姿勢」と将来都市像、施策大綱の関係性については、資料1_27 ページに図を掲載している。

【中村委員】

資料2_17 ページで示されている重点プロジェクトの関連の強い施策として○がついている項目と資料1_18～19 ページで示されている市民意識調査の世代別回答結果から作成された散布図の中にある緑の枠で囲われている項目（重要度が高く満足度が低い内容等を見直しを行う必要がある施策）は、項目が一致しているべきではないのか。

【事務局（企画政策課）】

資料1にある市民意識調査の結果から作成された散布図の項目は、市民意識調査にあたって各施策の名称から市民の方が取り組み内容をイメージしやすいキーワードに変換しており、計画の施策名と完全に一致したものではない。資料2_17ページの表で○がついている施策は、重点プロジェクト達成のために効率的かつ有機的に連携する施策であることを示している。

【中村委員】

資料2_13～16ページにある重点プロジェクト推進の中心となる施策が挙げられているが、関連する施策が総花的に掲載されているだけで施策の重要度の違いがわからない。

【事務局（企画政策課）】

重点プロジェクトで推進する項目の中に外部評価制度の実施を掲げている。外部評価制度の実施を検討しており、評価の実施結果を用いて施策の重要度・優先度や場合によっては施策の存続、廃止についての検討を予定している。

【堂下委員】

第2次総合計画の市民意識調査で採用した施策の名称は、10年前の総合計画策定時の調査の内容と近い項目が使用されているが調査で使用するキーワードや施策名称は時代に合わせて変化させていった方が良いのではないかと。

【事務局（企画政策課）】

10年前の調査と違うキーワードを調査で採用した場合、経年比較が難しくなるため今回は変更しなかった。次回の計画策定時には時代に合ったキーワードや施策名称の選定を検討したい。

【中村委員】

資料2_17ページの表中で施策「市民相談・消費者相談」が重点プロジェクトに分類されていないが、当施策は、施策として不要なのではないかと。

【堂下委員】

市民意識調査の結果を見やすくするために基本構想案15ページにある帯グラフの項目名を「施策大綱に対応するような形で枠を表示する」といった工夫をして欲しい。

【堂下委員】

冊子の文章中に理解するのが難しい行政用語が出てくるため、用語についての解説資料を添付した方が良いのではないかと。

【事務局（企画政策課）】

専門用語の解説については、審議会の資料では配付していないが、巻末資料の中に用語説明を添付する予定となっている。

【圓藤委員】

プロジェクトを推進していく際は、「金」「人」「モノ」が検討の中心になる。「金」についてはどのように配分していくか、「人」については誰が実行の主体となるか。資料2にある重点プロジェクトでは、「金」をどの施策・取り組みに優先的に割り振っていくのが分かりにくく、「人」については、実行主体として行政以外について触れておらず人材育成のビジョンも示されていない。施策担当の部署が分かれているから「金」の管理も分けて行うのではなく、プロジェクト達成のために一括で管理する。また、プロジェクトの実行者も行政だけではなく、市民をどのように巻き込み育成していくかを市民にわかりやすく提示して推進していくべきである。また、単純に指標が達成したか否かの評価とならないようにプロジェクトを推進していくべきと考える。

【堂下委員】

圓藤委員のご指摘は、計画が策定されて動き出してからの内容になると思いますが、プロジェクトの実行が行政だけというのはでなく市民を巻き込んで推進していただけるようお願いいたします。

【圓藤委員】

資料2_17ページをみると、福祉施策の多くは、安心・安全な子育て環境づくりプロジェクトや次世代へ続く地域づくりプロジェクトの関連施策として位置づけられているが、多様な働く場づくりにも十分関連していると考える。企業誘致や商工業の施策だけが、多様な働く場づくりと位置づけるのは、偏った考えに思う。

【事務局（企画政策課）】

多様な働く場づくりは、資料2_46～47ページに高齢者の生きがいという項目があり高齢者の就業支援の確保とあるが施策が少ないので一重丸としている。

【奈良委員】

資料2_46ページ施策「高齢者の生きがい」において関係課に商工観光課とあるが、施策についてどのように関係しているのか。

【事務局（企画政策課）】

取り組み方針④にある事業の「香取市のシルバー人材センター運営補助事業」の管轄を商工観光課が行っている。

【圓藤委員】

プロジェクトを推進するにあたって、行政組織も見直しを図っていかねばならないと考える。現に子育てに関係する部署だけでも複数課にまたがっている。課が違えば情報を共有することも難しくなることから、子育てに関する部署を一本化するなど組織の見直しをお願いしたい。

【事務局（企画政策課）】

資料2_94ページに職員減に対応しつつ市民ニーズを叶えるための機動的な行政組織作りを掲げている。

【奈良委員】

資料2_14ページの重点プロジェクトの(1)多様な働く場づくりプロジェクトの③「魅力ある農林畜産業の実現」の文章の中段にある「また、市・金融機関・農協との協働により～」の「また、市・金融機関・農協」の後に「等」を入れるべきではないか。

議題(3) 答申(案)について

答申(案)の作成方法、内容、答申の方法について事務局から説明。

【事務局(企画政策課)】

6月26日付で、諮問のあった総合計画案について、今後、審議会での意見をとりまとめ、3月下旬に答申することになる。

答申案の内容としては、これまで開催してきました審議会の議論の中で、委員の皆さまからご意見をいただくことが多かった内容・項目を中心に作成していく。

答申案は、基本構想についての内容となる「計画の推進にあたって」と基本計画についての内容となる「基本計画に位置づけられる施策の推進にあたって」の2項目で構成している。

【堂下委員】

答申の際には、本審議会で出された論点や市民意識調査結果から得られた市民の声なども含蓄のある言葉で市長へお伝えしたいと考えている。

最後に、第2次総合計画を策定にあたり、市民ワークショップや各種アンケート調査を実施してきた。これらの市民の声で得られた課題は、基本計画の重点プロジェクト等に反映しているが、私個人の見解としては、「交通インフラの脆弱性」が香取市の抱える致命的な問題であると考えている。市民が病院、学校や職場に通う足として、また観光、産業振興、企業誘致という観点からも交通インフラの整備は非常に重要であると考えている。今後、交通インフラ整備の積極的な推進を期待したい。

4 その他

事務局から計画の策定に今後の流れについて説明。

5 閉会

事務局の司会進行により、閉会。

以上